

防災しばた



第 32 号
平成30年3月22日発行



高めよう!
地域の防災力

平成30年1月28日(日)に、総務省消防庁災害伝承10年プロジェクト事業を活用し、東日本大震災を経験された、防災士の菊池健一氏を講師にお招きして、平成29年度防災講演会を開催しました。

日頃、講演会など防災協会事業に積極的にご参加頂き感謝申し上げます。一月中旬から水道管が凍結するような氷点下が続く寒気が日本を覆い、市内でも通勤、通学や緊急車両の通行に支障をきたす大雪となっています。当たり前前と違って住宅周辺の雪かきや、家屋の雪下ろしなど、高齢化が進む地域の雪対策を考えるきっかけになりました。

二年連続した加治川大水害から半世紀、幸いな事に新発田市では大きな災害の発生はありませんが、県内では地震や集中豪雨による水害と土砂災害が頻繁に起きています。

今年度、防災協会では県防災局の津波セミナーと、消防庁の災害伝承事業二つの講演会に参加し、東日本大震災と津波についての講話から、想像を絶する津波の恐ろしさを痛感したところです。

また、新潟県は日本海沖を震源とする地震が発生した場合の津波浸水想定図を、十一月に公表しました。市も新しい防災ハザードマップを作成し全戸配布します。大きな災害が起きたときに対応できるよう家族間での話し合いや防災訓練でのハザードマップの活用をお願いします。

ハザードマップの活用



新発田市防災協会
会長 塩原 佐千夫

**新発田市防災協会に
加入しましょう**

「自分たちのまちは、自分たちで守る」
新発田市防災協会は、これまで起きたあらゆる災害の教訓を踏まえ、それぞれの自主防災組織同士の連携と相互の協力体制の構築を目的のひとつとして活動しています。

各地区の自主防災組織の皆さんから、新発田市防災協会へ加入いただき、一緒に「向こう三軒両隣」の精神で、地域防災力の向上を目指しましょう。

自主防災組織の要件

皆さんの集落、自治会を基本として、規約を定め、自主的に防災活動に取り組んでいただくことで、自主防災組織となります。

問合せ・申込み先
新発田市防災協会事務局
(新発田市地域安全課消防防係)
☎二八一九五〇

住宅用火災警報器の点検のしかた

警報器本体のボタンを押すか、ひもを引いて作動するか確認しましょう。



※住宅用火災警報器は、10年を目安に交換をおすすめします。

お問い合わせ先
新発田広域消防本部 予防課 ☎22-8096 または、お近くの消防署、分署、出張所、分遣所

編集後記

防災広報委員長 福原 洋二

昨年は、羽越水害から五十年というところで、新発田市で各種のイベントがありました。全国各地で大災害が発生していますが、被災地のほとんどの人は「何年も暮らしているがこんな事は初めてです。」と言います。新発田市は大丈夫と安心していませんか。

各町内では、防災訓練を実施しても、「災害弱者である子供たちや家族連れの参加が少なく」と耳にします。普段からの訓練が大事です。自分の命を守る(自助)、家族や隣人を助けるために(共助・近助)、町内の訓練に参加しましょう。

新発田市防災協会では、毎年防災講演会や視察研修会を開催し、防災知識の普及に努めています。また、各種防災資機材の貸し出し等も行っています。防災協会と連絡を密にして、自主防災力と防災意識を高めて、大災害に備えましょう。

- (編集・発行)
新発田市防災協会防災広報委員会
(事務局)
新発田市地域安全課消防防係内
☎二八一九五〇
- 編集委員
- 委員長 福原 洋二(二葉小学校区)
 - 委員 島田 均(東豊小学校区)
 - 委員 森田 宏(猿橋小学校区)
 - 委員 河村 辰也(紫雲寺地区)
 - 委員 吉田 忠穂(加治川地区)